

令和の里海づくりモデル事業

取組	里海における藻場造成とアイゴ等の「磯焼け」対策&商品化による循環型経済の仕組みづくり
概要	防府市沿岸域を中心として、漁協が県、市の支援を受けて藻礁設置を行うなど漁場改善が行われてきた。この取組を加速させるため、ブルーカーボンクレジットへの認証や、藻食性魚類アイゴの商品化を通じ、市民や企業、漁業者に対し、里海保全への理解醸成や接点づくりを行う。

背景

地域資源	<ul style="list-style-type: none"> 外洋水が豊後水道と関門海峡から流入するとともに、周囲の山林から豊富な栄養塩が供給され、魚種が多く豊かな漁場を形成している。 特に遠浅で砂泥状の海底が広がる沖合は鰹の好漁場として知られている。 道の駅「潮彩市場防府」では、地域で水揚げされた魚介類を中心に販売・プロモーションしており、消費者に対する魚食文化の発信拠点として機能している。
------	---

地域課題	<ul style="list-style-type: none"> 漁業者の高齢化や、燃料価格の高騰、水揚げ量の減少等、漁業に関する課題が山積している。 アイゴの食害が原因の一つと考えられる磯焼けが発生している地域もあり、豊かな漁場の保全のためにも地域をあげた藻場再生の取組が必要であるが、藻場の重要性への認識・理解が必ずしも浸透しているとは言えない状況である。 藻場再生に取り組む際、小規模漁業者が多いため、扱いやすい藻礁やアイゴ捕獲網が必要。
------	---

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

【保全】

- 「組み立て式鋳鉄藻礁システム」によって藻場再生を行う。
- 周辺藻場環境を定期的にモニタリングするとともに、蓄積されたデータを分析し、効果的な藻場再生の手法を検討する。
- 藻食性魚類アイゴを捕獲することによって、食害の影響を緩和し、藻場再生に貢献する。そのために効果的な捕獲方法や活用方法を考案する。

【活用】

- 捕獲したアイゴの料理方法を開発するとともに、商品化を進める。
- 地域の里海の魅力や役割をプロモーションするためのエコツアーやセミナーを実施する。
- 再生した藻場をブルーカーボンクレジットに申請する。

【好循環形成・促進】

- アイゴやブルーカーボンをつっくに、住民や周辺企業、漁業者の里海に関する理解を醸成するとともに、様々な形で保全・再生活動に関わってもらうきっかけを作る。
- アイゴの商品化・販売を通じて、藻場再生活動資金に還元する。また、アイゴは漁業の閑散期に漁獲できる特性があるため、アイゴの漁業資源としての価値を向上させることで、地元漁師の収入の一助とする。
- ブルーカーボンクレジット認証を通じ、収入を活動資金に還元する仕組みを作る。
- 一連の取組を通じて活動を応援したり、参画するステークホルダーを増やし好循環の土壌づくりを進めていく。



令和の里海づくりモデル事業での取組

取組	里海における藻場造成とアイゴ等の「磯焼け」対策&商品化による循環型経済の仕組みづくり
主な実施内容	<p>【令和5(2023)年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他地域事例を参考にしつつ、漁業者等と意見交換を行いアイゴの捕獲方法を考案する。 上記で考案したアイゴ捕獲方法を、藻場造成地等で実証実験を行い、効果的な捕獲方法を開発する。 料理人と連携し、アイゴの料理方法や商品開発の方向性等を検討するとともに、開発した商品の試験提供を行う。 「藻場づくり」をテーマとしたエコツアーを開催し、海底湧水のしくみや海の生態系を体感できるワークを通じ里海の豊かさや保全の必要性を分かりやすく伝えるツアーコンテンツを開発する。 藻場造成のための基礎知識や、専門家による瀬戸内海の海洋環境における現状解説、ブルーカーボン・クレジットの紹介などを行うセミナーを開催する。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 地域の漁業者が無理なく取り組める効果的なアイゴ捕獲方法が考案された。 道の駅での試験提供や、料理人からの意見等を通じて、今後アイゴを商品化していくための目処をつけることができた。 これまでの藻場再生に関わるデータを整理し、今後のモニタリング手法を検討するとともに、ブルーカーボンクレジット認証につなげることができた。 漁業者・企業・行政関係者・市民等の多様な主体と、活動を行っていくための体制構築の基礎を作ることができた。
今後の課題・展望	<ul style="list-style-type: none"> アイゴの捕獲、加工、販売までの一連のプロセスに着手・拡大し、アイゴを食べる文化醸成につなげていく必要がある。 漁業者・企業・行政関係者・市民等と里海づくりについて、具体的なプロジェクトベースで連携していくための場づくりを行っていく必要がある。



エコツアーの様子

参加者に海底湧水の採取・塩づくり体験、アイゴの試食とともに里海の恵みや、アイゴと藻場再生に関する解説も行う。



試作品のムニエル（左）とフライ（右）



ブルーカーボンや里海づくりに
関するセミナーを開催



試食会場